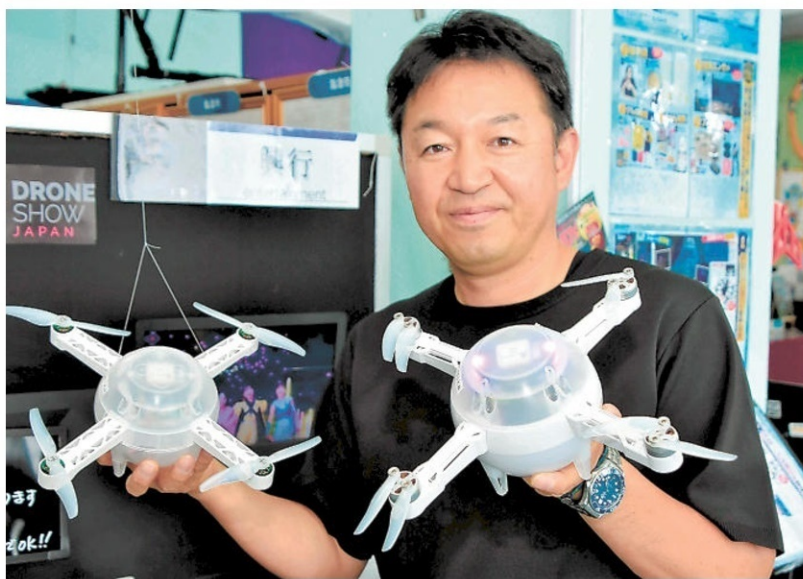


屋外ドローンショー 参入

ロボット、年間100公演以上目標



屋外ドローンショーで使用する機体を紹介する石田宏樹社長
＝美濃市曾代、ROBOS美濃支店

市場急拡大、料金プラン三つ

美濃市、恵那市を拠点にドローン事業を展開するROBOS（ロボット、名古屋市中村区）は9月から、屋外ドローンショー事業に参入する。初年度、全国で20公演、2026年度以降、年間100公演以上を目標に掲げる。市場が急拡大するドローンショーの需要を取り込み、30年7月期に売上高30億円を目指す。

（野中準二）

屋外ドローンショーの参入に向けて、4月に新たな事業部「ROBOSエンタテインメント」を立ち上げ、発した国産ドローンを導入した。ショーは、いずれも1公演15分以内で、300機で税別600万円、500機で900万円、千機で1700万円からの三つの料金プランを用意した。東海地方を皮切りに、関東、関西地方で地域活性化や企業のイベント、スポーツ、音楽フェスティバルでの受注獲得を狙う。

ドローンショーは音楽に合わせて、ドローンの隊列が夜空に絵や文字を描く空中ショー。国内では東京五輪の開会式を機に注目され、屋内のショーと合わせて市場規模は24年度が約20億円、30年度は約100億円と見込まれている。

ロボットは、ドローンのライセンススクール、インフラ点検や空撮、機体の販

売を手がけ、25年7月期の売上高は約1億7千万円。23年に屋内ドローンショー事業に参入し、国内最多の年間約100公演を手がけている。石田宏樹社長（50）は「ドローンショー事業を通じて、地域や観光の活性化に貢献したい」と話している。